

2. レビュー日 200 年 月 日 3. レビュー者

4. 患者への意図せぬ傷害や合併症が、医療行為や管理上の問題により発生した可能性を示唆する記録があったか？

- 1) 記録なし → STOP
- 2) 記録あり

5. 主な有害事象 基準番号 日付：200 年 月 日 内容：

6. 障害の種類と程度（複数選択可）

- 1) 重篤な原疾患・病状に合併しうる障害で、自然経過・予後に影響がなかった → STOP
- 2) 患者の死亡が早まった 死亡日：200 年 月 日
- 3) 退院時、患者に障害が残っていた

内容：

障害の程度：

- a. 有害事象発生後、1ヶ月以内に回復
- b. 有害事象発生後、1～6ヶ月で回復
- c. 有害事象発生後、6ヶ月～1年で回復
- d. 有害事象発生の1年後にも残っているが、仕事・家事への影響は50%未満
- e. 有害事象発生の1年後にも残っており、仕事・家事への影響は50%以上

判断根拠：

4) 新たに入院の必要が出た 新たな入院期間：200 年 月 日～200 年 月 日  
 a. 以前の自院入院が原因 b. 以前の他院急性期入院が原因 c. 外来診療が原因 d. その他

5) 入院期間が延長した 延長した入院期間：200 年 月 日～200 年 月 日

判断根拠：

6) 上記1)～5)のいずれにも該当しないが、本来予定されていなかった濃厚な処置や治療が新たに必要になった日時と内容：

7) 上記1)～6)のいずれも該当しない → STOP

7. 医療行為や管理上の問題の程度

- 1) 明らかに誤った医療行為や管理上の問題が認められる
- 2) 明らかに誤った行為は認められない

- a. 医療行為や管理上の問題による
- b. 医療行為や管理上の問題が原因となった可能性が高い (50%以上)
- c. 医療行為や管理上の問題が原因となった可能性は低い (50%未満)

8. 予防可能性

- 1) 予防可能性は高い (50%以上)
- 2) 予防可能性は低い (50%未満)
- 3) 予防は実際上困難 (診療方針の変更は不要)

9. 専門医等の意見を聞く必要があるか？

- 1) はい →裏面に質問項目を記して下さい
- 2) いいえ

10. 警鐘的事例があれば、日付と内容を記載して下さい。

日付：200 年 月 日

内容：

医療事故の全国的発生頻度に関する研究  
報告書

---

平成 16 年 3 月

編集・印刷

株式会社 三菱総合研究所 社会システム政策研究部  
〒100-8141 東京都千代田区大手町 2-3-6  
電話 03-3277-0730 FAX 03-3277-3460

---